

# クリエイティブ・コモンズにおけるライセンス設定: オープン・データへの示唆

渡辺智暁  
クリエイティブ・コモンズ・ジャパン 常務理事  
国際大学GLOCOM 主任研究員/講師  
2012.6.8.  
東京大学空間情報科学研究センター(CSIS)次世代社会基盤情報 寄付研究部門  
第3回公開シンポジウム「データ流通の円滑化を真面目に考える～意思決定が迅速にできる社会を目指して～」

## 本日のメニュー

- ・(自己紹介など)
- ・クリエイティブ・コモンズ・ライセンス(CCL)の考え方
- ・CCLの仕組みと工夫
- ・CC活用分野の広がり

## 自己紹介

- クリエイティブ・コモンズ・ジャパン 常務理事 (アウトリーチ、調査研究、ライセンス関連、国際リエゾン、人的資源ケア、雑務全般)
- 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 主任研究員/講師 (米国の通信政策、情報社会論、など。)
- ウィキペディア関連のボランティア(休眠気味)

## クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの考え方

## 背景としての低コスト化

(コスト= 金銭的費用、手間、時間、など)

- ・通信インフラの高速化、ユビキタス化
- ・記録、加工、複製などの情報処理の低コスト化
- ・様々な無料サービスの増大
- ⇒情報の発信、受信、検索などの担い手になりやすく、リーチは拡大しやすい環境

## 社会や市場と制度のミスマッチ

社会・市場の変化:

- ・創作・流通などへのアマチュアの(大量)参入
- ・情報やコンテンツの複製・共有・加工が簡単に。
- ・そうしたコンテンツの中にも鑑賞に耐えるものが。
- ・ある程度自由に利用してもよいコンテンツが増大
- ・情報提供によってミッションを追求する非営利・公共セクタープレイヤーにも大きなチャンス

著作権制度: “All rights reserved,” 無方式主義

基本原則は「権利者の許諾なしに利用してはダメ」

## ミスマッチ

- ・著作者による独占
- ・個別許諾による利用が前提

⇒こうした保護を必要としていないコンテンツやクリエイターが一方には存在し、他方にはそのようなコンテンツやクリエイターを欲する利用者などが存在する。

⇒補完的な制度としてのパブリック・ライセンスによるマッチング

## パブリック・ライセンス

- ・誰でも一定の条件を満たせばこの著作物を使ってもよい、という許諾をするためのツール
- ・クリエイティブ・コモンズの提供しているツールであるクリエイティブ・コモンズ・ライセンス群はどれもパブリック・ライセンス

⇒CCライセンスで提供されている著作物は、誰でも、ライセンスに書いてある形で利用可能。(個別交渉は不要= 利用の低コスト化)

## オープン・データをめぐるミスマッチ

- ・政策目標は、データの再利用促進と、それを通じた経済成長、政府の透明性向上、等
- ・(背景にはICTの発達によるデータ生成・転送コスト、解析コストの低下)
- ・そのためには、利用のコストをできるだけ下げる方がよい。「原則利用禁止」の著作権制度とのミスマッチがある。

→パブリック・ライセンスの導入。(あるいは著作権法等の改正)

## 政府の著作物も原則利用禁止

日本の著作権法上の例外は...

- ・法令、判例などは保護の対象外(13条)(自由に利用可能)
- ・政府の広報資料などは「説明の材料として」「新聞紙、雑誌その他の刊行物」に「転載」できる。(32条)(その他の利用は要許諾)
- ・一部の政治の演説等は、同一著者のものを編集する場合を除き、自由に利用できる。(40条)

※米国では連邦政府の著作物は全て著作権保護の対象外。

## 小まとめ

- ・著作権制度は、著作者が何もしなくても、創作物を保護する。これは著作物の創作・複製・流通などが簡便になった現状と必ずしもそぐわない。
- ・現行の制度とは違う条件で、流通や利用を許諾するためのツールが、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス。
- ・万人が従うべき法ではなく、希望者が使えるツール。

## クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの仕組みと工夫

## 使いやすさを重視

※アマチュアのクリエイターは、顧問弁護士や法務部に頼れるわけではない。

※ライセンスのついたコンテンツを利用する人も同様のことが多い。

- ・ライセンスの文面を読みやすく
- ・FAQを用意する

## 更なる工夫

- ・アイコンの組み合わせで要点を表示
- ・コモンズ証で要点を記述

一目見て「あのライセンスだ」と分かる部分を増やす。

## 更なる工夫

・ライセンスがたくさんあると、著作者は何を選べばいいかわからない。(読み比べるのも面倒)

→ライセンス選択用のツールをサイト上で提供

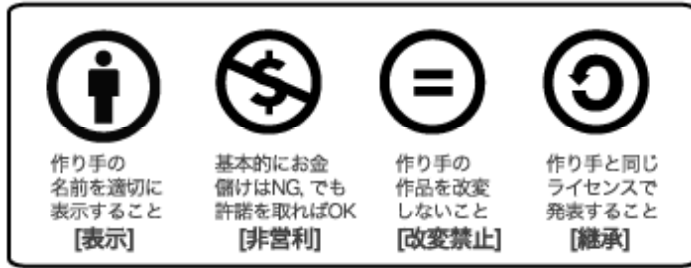
## ライセンスの構成要素

4つの基本要素

BY	表示	Attribution
NC	非営利	NonCommercial
SA	継承	ShareAlike
ND	改変禁止	NonDerivs

これにバージョン名、準拠法コードを足すと、ライセンスの名前になる。

例) クリエイティブ・コモンズ 表示ー継承 2.1 日本  
Creative Commons BY-NC 3.0 US



## 複数の利用場面にまたがる工夫

※ライセンスがたくさんあると、理解するのが大変

- ・ライセンス名は、有限な要素の組み合わせ
  - ・ライセンスの共用部分を多くする。共用でない部分もモジュール化する。
  - ・そもそもライセンスの数を増やしすぎない。(悩みどころでもある)
- 「このライセンス、知ってる」という場面が増える。  
「このライセンス、知っているライセンスのバリエーションになっている」という場面は更に増える。

## ライセンスの種類をめぐるトレードオフ

ライセンスの種類が多いと...

- 著作者は自分の望みどおりのライセンスが含まれている可能性が高い
- × 著作者は選ぶのが大変
- × 著作物の利用者はライセンスを読んで理解するのが大変(作品ごとに別のライセンスを読まなければならない!)
- × 互いに組み合わせが可能でない作品が増える(「コモンズ」の分断)

## トレードオフ

ライセンスの種類が少ないと...

- わかりやすい
- × 要望にあうライセンスがないために、著作者はライセンスを使わない(コモンズが育ちにくい)
- 異なる作品が同一ライセンス下にある可能性が高く、互いに組み合わせやすい

## 互換性確保の試み

独自ライセンスを作成している場合であっても、互換性をライセンス内で明記している例:

- ・イギリスのOpen Government License
  - CC-BY ライセンス(全バージョン)
  - ODC-BY ライセンス
- ・フランスのLicense Ouverte
  - CC-BY 2.0ライセンス
  - ODC-BYライセンス
  - Open Government License

## 技術的な工夫

※「人間にわかりやすく、法律的に厳密に、機械的に処理しやすい」ライセンスをめざす

- ・ライセンスに関するメタデータを定義、付与を奨励。(コードの自動生成ツールも用意)

→検索エンジン等でも扱いやすくなる  
(例: Googleの詳細検索オプション)

## ライセンスをとりまく制度

- ・サポート体制(基本的な質問に回答、依頼に応じた解説)
- ・内容の更新(技術、利用動向などの変化に対応)

※初期バージョンにはエラーも存在すると考えておくのが無難

※パブコメ、ワークショップ、ソーシャルメディアなどを通じたフィードバック収集

※問い合わせが多い点、要望が多い点について改訂に盛り込むかどうかを検討

## 小まとめ

- ・クリエイターにも利用者にもわかりやすい・使いやすい
- ・多数のライセンスを理解する手間を抑える
- ・複数作品の組み合わせの可能性に配慮
- ・メタデータ付与
- ・そもそも個別の連絡・交渉・契約を不要に
  - いわゆる「取引費用」の削減→利用促進
- ・問い合わせ回答、ライセンス更新の体制も準備

## CC活用分野の広がり

## 国際展開

- 本部は米国
- 各国・地域の著作権法に合わせてライセンスを調整(ポーティング)。70程度の国・地域で展開

## 著名な組織による採用例

- 米国ホワイトハウス(オバマ政権)  
サイト利用者の投稿につけるライセンスとして採用。豪州政府などでも導入。日本でも導入例あり。
- MIT OpenCourseWare – 同校の2000以上の授業について、シラバス、講義資料、動画などをCCライセンスで公開。

## 著名なアーティストによる採用例

- Nine Inch Nails “Ghost I-IV”  
アルバムにCCライセンスを付与し、Bit Torrentでも積極的に提供。300ドルのデラックス版を30時間で完売した他、同年のAmazonのmp3ストアで2008の売り上げトップアルバム。
- オノ・ヨーコ(広島市現代美術館 企画展)  
来館者に写真撮影を許可・撮影した写真はネット上などでCCライセンスつきで公開可能に
- 坂本龍一 “Chain Music” 多様なアーティストが音楽を綴っていく試みを主宰。CCライセンスで提供。

## プラットフォームでの導入例

- ・ウィキペディア – 2009年より導入；基本的に全てのページの文章に適用される。
- ・Flickr – 初期から投稿者にCCライセンスの付与を奨励。2億枚程度の画像がCCライセンス下で公開されている。
- ・Googleによる震災記録の保存プロジェクト「未来へのキオク」でもCCライセンスを奨励（YouTubeやPicasaのインターフェースでサポート）

ご清聴ありがとうございました！

- ・ご意見、ご質問は：  
tomoaki@creativecommons.jp  
へ。